

岩手県
取組成果発表資料

本日の内容

- 1 事業の概要
- 2 事業の総括
- 3 遠隔授業について
 - ・取組の概要
 - ・主な成果
 - ・実証研究において明らかになった主な課題と対応
- 4 地域との協働について
 - ・高校の魅力化に係る取組
 - ・いわて高校魅力化・ふるさと創生推進事業について

1 事業の概要

イーハトーブCOREハイスクールネットワーク構想

目的

- 教育の機会の保障と教育の質の保証
- 魅力ある学校づくり
- 地域を担う人材の育成

現状・背景

- 生徒数の減少
- 県立高校再編計画
- 1学年1学級校の存続**
- 多様な進路希望の実現
- 教育環境の整備

1. 遠隔授業に関する取組の概要

教育センターから小規模校に対して授業を配信

【目的】

- 実施におけるハード、ソフト両面での課題を明らかにする
- 全県展開に向けて、課題の解決方を検討

2. 地元自治体等と連携・協働する体制の構築

オンライン配信等の活用による、地域の教育資源等を題材とした探究的な学びの実践

【目的】

- 地域を担う人材を育成
- 魅力ある学校づくり
- 運営体制のモデルを構築

3. ネットワークの構成

〈配信拠点〉

岩手県立総合教育センター内

〈構成校〉

- ①葛巻高校（県央部）、②西和賀高校（県西部）、③花泉高校（県南部）、④山田高校（沿岸部）、⑤種市高校（県北部）



2 事業の総括

1 中山間地域の小規模校を対象とした遠隔授業に関する研究 (目的)

- ・ 遠隔授業に係る研究を行い、実施におけるハード、ソフト両面での課題を明らかにする。
- ・ 全県展開に向けて、中山間地域における教育の機会の保障と教育の質の保証を充実する。

(目標)

- ・ 遠隔授業による生徒の多様な進路選択の可能性を明らかにすること。
- ・ オンラインによる効果的な指導と適切な評価の方法について明らかにすること。
- ・ 遠隔システムを介した対話による、言語能力や問題発見・解決能力の効果的な育成方法について明らかにすること。
- ・ 遠隔授業を効果的かつ効率的に推進するための校内組織のモデルを構築すること。

2 事業の総括

1 中山間地域の小規模校を対象とした遠隔授業に関する研究 (成果)

- ・プロジェクトチームを立ち上げ、課題を検討・整理した。
- ・遠隔授業の基盤を構築し永続的に実施可能な環境を整備できた。
- ・遠隔授業や課外授業により大学進学を果たすなど、教育の質や機会の充実について一定の成果が得られた。
- ・サポート教員の支援や学校フォルダの活用等により、遠隔授業の評価方法について枠組みを構築できた。

(課題)

- ・構成校間の連携に係る取組を十分にできなかった。
- ・受信校の体制に差異が見られる。

2 事業の総括

2 学校間連携を行うための運営体制に関する取組

(目的)

- 学校間連携を効率的に運用するための体制について知見を得る。
- 構成校の学校間連携による授業研修の在り方について知見を得る。

(目標)

- 管理機関、CIO及び構成校の管理職等の役割と連携方法について明らかにする。
- 学校間連携による授業研修モデルを構築する。
- 遠隔授業や探究的な学び等について、オンラインを活用して共有するシステムを構築する。

2 事業の総括

2 学校間連携を行うための運営体制に関する取組

(成果)

- 遠隔授業の公開等により、ICT活用の視点等から遠隔授業の枠を超えた研修成果を得られた。
- CIOや授業者に、校長や指導主事を経験した人材を任用することで機動的に取組みを進めることができた。

(課題)

- 構成校間の連携に係る取組を十分にできなかった。

2 事業の総括

3 コンソーシアムの構築と、学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組

(目的)

- ・ 中山間地域の教育資源を活用した、探究的な学びの実践による人材育成と魅力ある学校づくりを実現
- ・ コンソーシアム間の連携体制を構築し、高等学校全体としての教育水準の向上

(目標)

- ・ これまでの各校における取組をさらに充実・発展させ、学校間での交流や、地域と連携した探究的な学びのモデルを構築すること。
- ・ 各構成校のコンソーシアム間の情報を共有し、各校の教育水準の向上を実現する運営体制のモデルを構築すること。

2 事業の総括

3 コンソーシアムの構築と、学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組

(成果)

- 探究的な学びの充実に繋がる新たな事業を展開し、各校の取組が深化した。
- 学校運営協議会の設置が進み、地域と連携する体制の基盤が充実した。
- 魅力化フォーラムや探究活動発表会等を実施し、各校の取組を共有することができた。

(課題)

- 学校運営協議会等、各校の組織を包括する、学校の垣根を超えた組織の編制には至っていない。

2 事業の総括

【今後の展望】

○遠隔授業

- ・ 国の事業等の活用を検討
- ・ 令和6年度は本年度と同様の教科・科目を配信
(受信校1校増)

○コンソーシアムの構築等・地域との協働

構想調書に示した次の①～③の視点から、さらなる充実を図る。

○ 「地域課題解決に向けた探究的な学びなどに関する取組の概要」

の項目

- ① 「いわて高校魅力化・ふるさと創生推進事業」を基盤とした取組の推進
- ② 各校のコンソーシアム間の連携
- ③ 各校コンソーシアムにおける取組の成果の共有と活用

3 遠隔授業について

【取組の概要】

○ 配信拠点の整備（令和3年度）

- 総合教育センターを配信拠点とし、3つの配信スタジオを整備

○ 配信専任教員の配置（令和4年度から）

- 3名の専任教員を配置

※ 配置した教員は再任用で校長や指導主事等経験者

○ 配信科目について

- 令和3年度

試行（物理、化学、数学、公民）

- 令和4年度

本格実施（物理、化学、数学、のべ6科目）

- 令和5年度

配信科目を変更し**拡充**（物理、地理、情報、のべ13科目）

公民で複数校への配信も試行

・構成校の要望を踏まえて科目を変更
・化学、数学は受信校に専門の教員が配置
・学校のニーズは「専門性」

3 遠隔授業について

【主な成果】

コンセプトは「シンプル」
～永続的な実施が可能な体制～

(1) 簡易なパッケージによる実施体制の確立

- 現行の規則による運用
- 既存のNW環境での実施（ハード）
- Microsoft365の機能により環境を構成（ソフト）

※ Microsoftアカウントは県立高校の全教員と生徒に付与済み



最小限の設備によるコンパクトな配信・受信環境を構築

配信側

- 1 カメラ
- 2 端末①(有線接続)
- 3 スピーカー
- 4 マイク
- 5 端末②(Wi-Fi接続)
➤ 受信側の視点
- 6 端末③(Wi-Fi接続)
➤ 共同作業用



受信側

1

2

- 1 プロジェクター
- 2 スクリーン
- 3 カメラ
- 4 端末
- 5 マイク、スピーカー

3

4

5

※ サポート教員は教員の外、
実習助手や会計年度任用職員
(障がいをもつ生徒の支援員)
が担当。

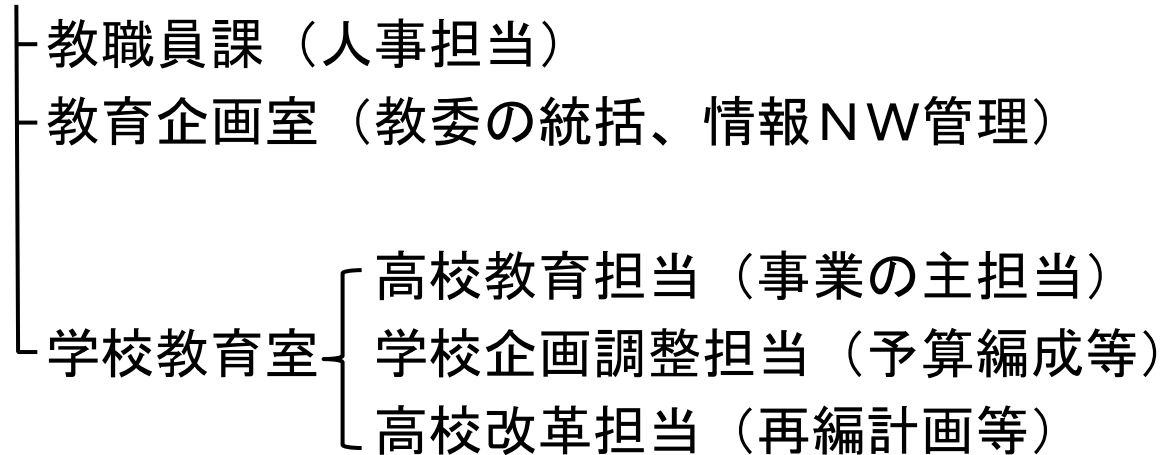
3 遠隔授業について

(2) 遠隔授業の推進のための組織を編成

- 教育次長をリーダーとし、教育委員会内の部署を横断したプロジェクトチーム
- 予算や人事の検討等、機動性が向上し円滑な合意形成が可能に

〈構成〉

教育次長



3 遠隔授業について

(3) 大人数（30名程度）の授業配信（地理、情報）に係る知見の蓄積

グループワークの試行



モニター越しの受信教室の様子



高い位置から撮影



- ・一人一台端末の活用
- ・グループワークの試行
- ・受信教室の状況把握のための工夫（カメラの位置など）

3 遠隔授業について

(4) 小規模校の遠隔授業に対する信頼と期待

- すべての構成校が令和6年度も同等の実施を希望
- 令和6年度から新規受信校1校を追加予定
(※令和6年度はのべ14科目を配信予定)

(5) C I O、専任教員による充実した実証研究

- 校長や指導主事等経験者の配置により、質の高い知見を蓄積

3 遠隔授業について

【実証研究において明らかになった主な課題と対応】

(課題1) 安定した通信状況の維持

- N T Tと連携し通信状況調査を適宜実施。
- 受信校5校の回線ルートを変更。
- 県で整備したL T Eルーターを活用。(現行のセキュリティポリシーの範囲内で運用)

(課題2) 配信教員について

- さらなる拡充のための増員の方法。
- 管理職が勤務場所に不在であり、サービス管理等に課題がある。
- 所属と勤務場所が異なるため、事務的な手続きに手間がかかる。
- 当該教員の「所属感」等、心理的な負荷がある。

- 令和6年度に配信拠点を県立高校に移転する方向で検討中。

3 遠隔授業について

(課題3) 受信校の体制について

- 受信教室の環境（ハード面）について学校の実情により差がある。
- 学校によりサポート教員の役割や意識に差がある。
- 1, 2も含め、遠隔授業の標準化を図るため、「遠隔授業実施要領」（仮称）を作成する。

4 地域との協働について

高校魅力化の全県展開のイメージ

～H23～

～R1

R2～R3

R4

R5

R6～

地域等をフィールドにした活動

地域等との協働による探究的な学び

高校魅力化【探究・共創】事業



魅力化戦略：沿岸・中山間部（小規模校）から沿線部（中・大規模）への成果の波及

4 地域との協働について

【高校の魅力化に係る取組】

○高校の魅力化促進事業（令和2～3年度）

小規模校を対象とし、地域住民や地元企業等と連携し、地域課題に取り組む探究活動等を支援。

○「いわての高校魅力化グランドデザインfor2031」の策定 （令和3年10月）

岩手県立高等学校に関するスクール・ミッション。

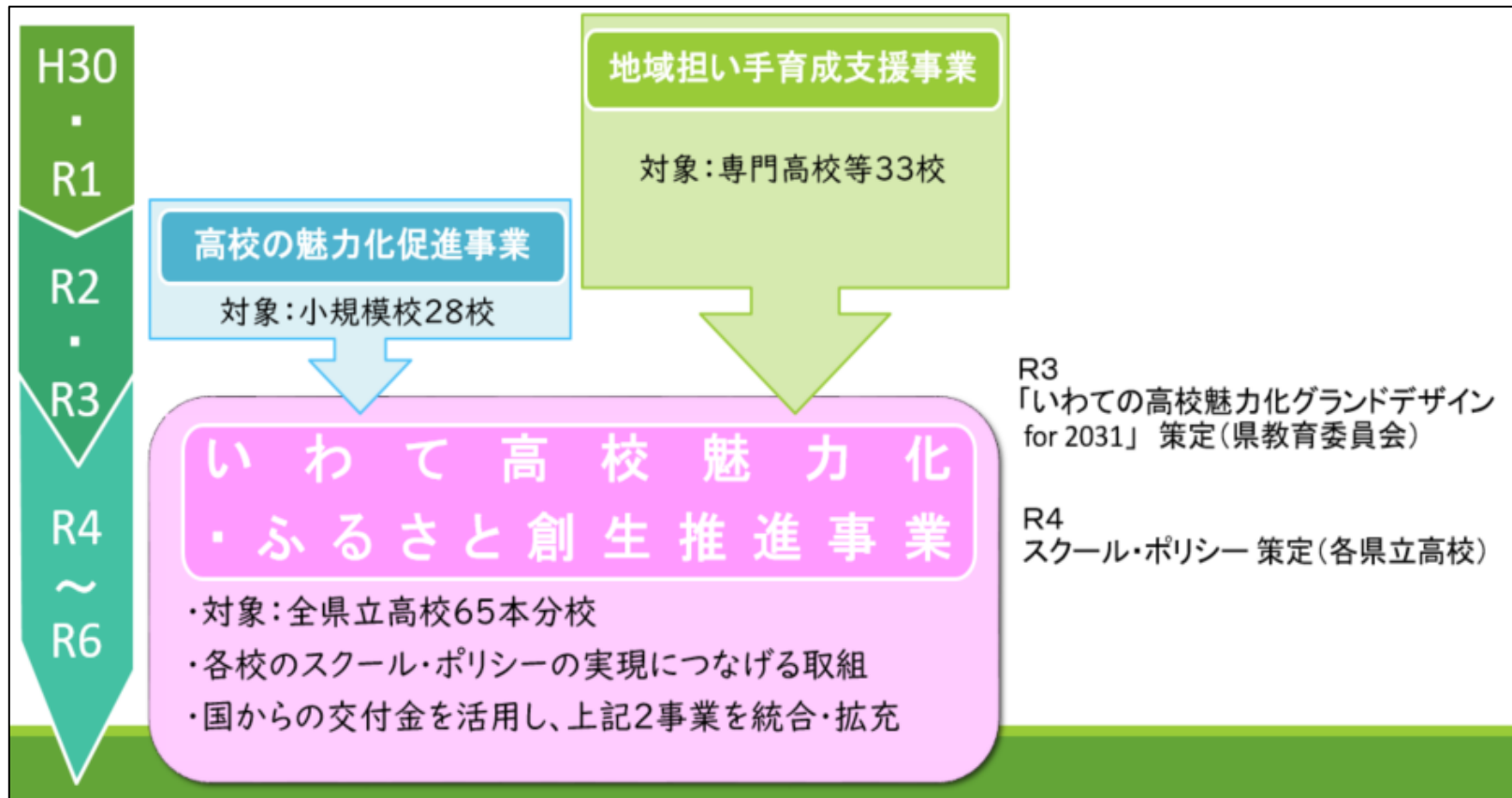
○「いわて高校魅力化・ふるさと創生推進事業」（令和4年度～）

「高校魅力化」を持続可能な取組に深化。全県で「高校と地域等との共創による地域を担う人づくり」を中長期的に進めるもの。

4 地域との協働について

【いわて高校魅力化・ふるさと創生推進事業について】

○事業構成



4 地域との協働について

【いわて高校魅力化・ふるさと創生推進事業について】

○令和5年度の主な取組

- (1) 県高校魅力化プロデューサーによる高校魅力化の推進
学校及び市町村訪問による協働体制の構築・強化
- (2) 地域連携コーディネーターの配置
小規模校3校（うち2校は構成校）に配置
- (3) 魅力化フォーラムの開催
県立高等学校から校長または副校長、市町村等の関係者、
約90名が参集、また、約60カ所とオンラインにより接続し、
約150名が参加
- (4) 「探究活動」発表会等の開催
 - ・県内を6地区に分けて開催
 - ・生徒の学びの場、教員・関係者の学びの場を創出
- (5) 地域等の関係者と連携・協働した探究的な学びへの支援

4 地域との協働について

○魅力化フォーラムの様子



4 地域との協働について

○地域との関係者と連携・協働した探究的な学びに係る構成校の取組

葛巻	地域振興や活性化について探究。
西和賀	西和賀まち・ひと・しごと魅力図鑑の作成。町の魅力探究。
花泉	地域の史跡フィールドワーク。地域の歴史・偉人等を学ぶ。
山田	ふるさと探究(高校生議会・発表会)。地域課題解決への取組。
種市	地域産業ワールドカフェ。社会人講師を招聘し地域産業理解。